

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>農業高校としての機能を最大限に活かし、社会や産業の発展に貢献できる人材を育成することにより、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着と、これらを活用して主体的に課題を解決するための思考力、判断力、表現力、創造力などを身に付けさせる。 2 生命と人権、自然と環境を大切にできる態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力やチャレンジ精神を育む。 4 地域や産業界等との連携を密にし、様々な社会資源を活用した教育活動を展開し、府立高校あるいは農業高校としてのニーズと期待に応える。
--

2 中期的目標

<p>1 確かな学力の育成</p> <p>(1) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。</p> <p>ア 1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入し、個々の生徒に応じた、きめ細かな指導により基礎学力を向上させる。 *授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」(H30 3.14)を毎年0.03引き上げ、2021年度には3.23にする。</p> <p>イ アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させ、生徒が主体的に学習に取り組むための環境づくりを進める。 *授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができていく」(H30 3.24)を毎年0.03引き上げ、2021年度には3.33にする。</p> <p>ウ 基礎学力委員会を設置し、「高校生のための学びの基礎診断」の導入と効果的な活用について研究する。 *基礎学力の定着に向けたP D C Aサイクルを構築する。</p> <p>(2) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。</p> <p>ア 各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科や他の教科との連携方法について研究する。 *授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」(H30 3.16)を毎年0.3引き上げ、2021年度には3.25にする。</p> <p>イ 課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。 *保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。農業クラブ大阪府研究発表会で最優秀賞を獲得する。</p> <p>2 安全安心で魅力ある学校づくり</p> <p>(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。</p> <p>ア 教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。 *遅刻による早期指導対象生徒数(平成30年度108名)を毎年1割以上減らし、2021年度には半減させる。</p> <p>イ 災害時の生徒の安全確認を迅速に行うとともに、帰宅困難となり一定期間待機せざるを得ない生徒の安全を確保する。 *学校ウェブページに開設した災害時における生徒の安否状況を確認するための緊急連絡フォームを実用化する。生徒備蓄を整備する。</p> <p>(2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を確立する。</p> <p>ア 職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制をさらに充実する。 *生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(平成30年度肯定率70%)を毎年3%以上引き上げ、2021年度には79%にする。</p> <p>イ 中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた指導を推進する。 *年度末の進級率・卒業率(平成30年度95%)を毎年1%以上引き上げ、2021年度に98%とし、それを維持する。</p> <p>(3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立</p> <p>ア 生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。 *ともに学びともに育つという理念のもとで、自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制を完成させる。</p> <p>(4) 生徒に豊かな心を育むための教職員の意識・意欲の醸成と学校の魅力の発信</p> <p>ア 教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、校務についての組織的、効果的、効率的な遂行を図る。 *教職員の問題事象をなくすとともに、働き方改革による長時間勤務の是正を進める。</p> <p>イ 府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。 *学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成、学校ウェブページ更新、報道提供を推進する。</p> <p>3 夢と志を持つ生徒の育成</p> <p>(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。</p> <p>ア 就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。 *学校紹介による就職率100%を維持する。農業関連分野への就職を促す。</p> <p>イ 進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。 *大学進学に対応した教育課程を編成する。国公立大学や難関私立大学への進学者10名以上を目標とする。</p> <p>ウ 各学科の学習内容を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。 *アグリマイスター顕彰制度認定者(平成30年度7名)を毎年2名ずつ増やし、2021年度には13名にする。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する *生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(平成30年度肯定率70%)を毎年3%以上引き上げ、2021年度には79%にする。</p> <p>イ 農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。 *農業クラブ加入率(平成30年度47.9%)を2021年度に60%とし、それを維持する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 生徒</p> <p>○肯定率の高いもの 実験実習に関する施設・設備が整っていること、就職に有利なこと、入学して良かった</p> <p>○肯定率の低いもの ICT等の機器の充実、利用ボランティアや地域活動への参加、生徒会活動への参加意識</p> <p>2 保護者</p> <p>○肯定率の高いもの 本校が独自の教育活動を行っていること、地域連携を積極的に行っている、子どもが学校行事に積極的に参加している</p> <p>○肯定率の低いもの</p>	<p>第1回(6/26)</p> <p>学校教育計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべて承諾を得られた。 ・各分掌等の今年度の取組目標について ・課題がないということはないので、具体的に目標を立てる必要がある。 ・GAP(農業生産工程管理)への取組がどのようになっているのか示すこと。 <p>平成30年度卒業生進路状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路未定の生徒がいらない状況は評価できる。 <p>学校教育計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力委員会(学びの基礎診断を学校内でどのように取り組んで、生徒の学力向上をめざす委員会)に注目したい。 <p>第2回(11/20)</p>

<p>子どもが授業をわかりやすく楽しいと言っている、部活動の活発さ</p> <p>3 教職員</p> <p>○肯定率の高いもの</p> <p>生徒の問題行動への組織的な対応、いじめ事案への迅速な対応、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導の実践</p> <p>○肯定率の低いもの</p> <p>校則について話し合う機会、施設・設備の長期的、計画的な拡充、ICTの整備・活用、生徒会活動への工夫、個人情報の適正管理、服務規律への意識</p>	<p>第1回授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に即したものにするために講義形式と実技形式の2つに分けて集計するようになったが、講義形式の中に実技要素を取り入れることも大切。 ・1学期と2学期のアンケート結果の違いは、生徒の変化を捉えやすい。 <p>進路概況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現3年生の就職内定状況と進学予定状況について確認できた。 ・進学については、指定校推薦等を利用する生徒が多いこと、農学系においては著名な大学に進学していることは評価できる。 <p>P T A 新聞について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の諸活動を保護者に伝えるために多くの取材、撮影を心がけたこと、写真を出来るだけ多く掲載できるように新聞のレイアウトにも工夫をこらしたことは評価できる。 <p>第3回(2/14)</p> <p>平成31年度 学校経営計画及び学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般について承認された。 ・アグリマイスターの認証人数、生産物の売り上げの減少についての理由を説明した。 <p>令和2年度 学校経営計画及び学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の課題解決に向けての取組が適切に設定されている。めざす学校像と中期的目標について承認された。 ・キャリアパスポート、海外研修の導入などがあるが、教職員の負担増への配慮が必要。 <p>学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門機器等の整備についての評価は高いが、ICTの充実が必要である。 ・ボランティア活動が低迷している。生徒会の活動が盛んではなく、一部の生徒のみが活動している。 ・保護者からの評価は全体的に高い。 <p>授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生は実習の評価が高く、目的意識をもって取り組んでいる ・1年生は講義形式の授業評価が下がっているため、アクティブラーニングの導入などの取組が必要である。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、進学とも素晴らしい成果を収めている。 ・老朽化し、危険性の高い温室について、撤去・改修等の意見書の提出を行うこととする。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。</p> <p>(2) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。</p>	<p>(1) ア ・1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入する。 ・付けさせるべき学力と付けさせるための方法について研究する。 イ ・アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させる。 ・学期ごとに生徒の学習状況調査を実施する。 ウ ・基礎学力委員会を設置する。 ・「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、効果的な活用について研究する。</p> <p>(2) ア ・各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科や他の教科との連携方法について研究する イ ・課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。</p>	<p>(1) ア ・授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」(H30 3.14)を3.17にする。 イ ・授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができていく」(H30 3.24)を3.27にする。 ・生徒の学習状況調査を実施する。 ウ ・基礎学力委員会を設置する。 ・基礎学力の定着に向けたP D C Aサイクルを構築する。</p> <p>(2) ア ・授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」(H30 3.16)を3.19にする。 イ ・保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。 ・農業クラブ大阪府研究発表会で最優秀賞を獲得する。</p>	<p>(1) ア ・「授業内容に興味・関心をもつことができた」については、3.16に留まり、次年度は授業の内容の研究・改善に取り組みたい。() イ ・「必要な学習(課題、宿題等)ができていく」については、3.30となった。次年度は指導を強化したい。() ・生徒の学習状況調査については、実施できなかった。次年度は実施したい。() ウ ・学力委員会という名称で委員会を設置した。 ・基礎学力の定着とそのための教育産業の基礎学力調査の活用について検討を進めたが、P D C Aサイクル構築には至らなかった。()</p> <p>(2) ア ・「知識や技能が身についたと感じている」については、3.19に留まり、次年度は、授業の内容の研究・改善に取り組みたい。() イ ・各科において課題研究の発表会を行ったが、外部に向けての研究発表会は開催できなかった。次年度は、地域とのつながりの中で学びを深めていくこと、教育成果を発信することに努めたい。() ・意見発表会の1分野において最優秀賞を獲得した。次年度は、生徒、教職員とも研究活動を充実させるための専門性と意識を高める必要がある。()</p>

府立園芸高等学校

<p>2 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。</p> <p>(2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導の確立</p> <p>(3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立</p> <p>(4) 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成</p>	<p>(1) ア・教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。 ・災害時における生徒の安否状況を確認するとともに、生徒備蓄を整備する。</p> <p>(2) ア・職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制のさらなる充実 イ・中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。</p> <p>(3) ア・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。</p> <p>(4) ア・教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、効果的・効率的に職務を遂行する。 イ・府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。</p>	<p>(1) ア・遅刻による早朝指導対象生徒数(平成30年度108名)を1割以上減らす。 ・学校ウェブページの緊急連絡フォームを実用化する。 ・生徒備蓄を整備する。</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(平成30年度肯定率70%)を73%にする。 イ・年度末の進級率・卒業率(平成30年度95%)を96%にする。</p> <p>(3) ア・自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制を構築する。</p> <p>(4) ア・教職員の問題事象をゼロにする。 ・教員の時間外労働時間(80時間超え)を2割減らす。 ・行政職員の時間外労働時間数総数(前年度)を維持する。 イ・各科の教育内容等についての十分な理解を図るため、学校説明会を改善し、体験入学会の回数を増やす。 ・学校説明会等の参加者を10%増加させる。(H30 560人) ・学校案内を魅力あるものへと刷新する。</p>	<p>(1) ア・早朝指導対象生徒数は86名となり、16%減らすことができた。次年度は、授業規律、携帯電話モラル、清掃・美化等への指導を強化したい。() ・緊急連絡フォームの施行実施したことにより、生徒・教職員の安否確認の1方法として扱えることを確認できた。() ・生徒備蓄を整備できた。次年度は、農業高校として本校独自の備蓄食料の開発につなげたい。()</p> <p>(2) ア・「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」の肯定率は73%となった。次年度は、より丁寧な指導が必要である。() イ・年度末の進級率・卒業率を高めることはできなかったが、学級担任を中心に、個々の生徒に応じた指導を行ったことで、昨年度と同じ数字となった。()</p> <p>(3) ア・教育相談の中に支援担当者を置くことで、自立支援コース以外で支援の必要な生徒への配慮等を充実させることができた。次年度は、さらに充実を図りたい。()</p> <p>(4) ア・生徒の個人情報紛失事象が1件発生したため、研修等を通じ教職員への指導徹底を図った。次年度こそは問題事象をゼロにしたい。() ・教員の時間外労働時間(80時間超え)該当者は4割減となった。() ・ネットフェンスなどの工事を抱えつつ、行政職員の時間外労働時間は、前年度とほぼ同じであった。次年度も継続したい。() イ・学校説明会では、毎回、生徒の研究発表やテレビでの本校紹介映像を上映するなど、内容の充実を図った。体験入学会は1回増やし2回実施した。() ・学校説明会等の参加者は、633人となり13%以上増加。() ・本校卒業生の漫画家により、広報用学校ポスターを制作した。次年度はSNSの活用など教育活動の積極的発信を検討したい。()</p>
<p>3 夢と志を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p>	<p>(1) ア・就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。 イ・進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。 ウ・各学科の学習を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。</p> <p>(2) ア・行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する イ・農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味わわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。</p>	<p>(1) ア・学校紹介による就職率100%を維持する。農業専門学科に関連する産業分野への就職者を増加させる。 イ・学科間を超えた進学指導体制を構築する。 ・国公立大学や難関私立大学への合格者8名(平成30年度6名)以上とする。 ウ・全国農業高等学校長協会によるアグリマイスター顕彰制度認定者(H30 7名)を9名にする。</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(平成30年度肯定率70%)を73%にする。 イ・農業クラブ加入率(平成30年度47.9%)を52%とする。 ウ・実習の成果物を販売につなげ、校内販売所での生徒による販売機会を増やすとともに、販売額を5%増やす</p>	<p>(1) ア・学校紹介による就職率100%を維持。専門に関連する産業分野への就職者は11%増加した。() イ・進路指導部の進学担当者を明確化することで、情報の共有化と学科を超えた指導につながった。 ・国公立大学や難関私立大学への合格者は3名増加した。() ウ・アグリマイスター顕彰制度認定者は5名に留まった。卒業後の進路を見据えた資格取得等の啓発が必要である。()</p> <p>(2) ア・「高校生活に自分なりの目標を持っている」の肯定率は前年度と同じ70%にとどまり、次年度は増加させたい。() イ・農業クラブ加入率は52%となった。農業クラブ活動と課題研究等のつながりを明確にするなど、さらなる活性化が必要である。() ウ・校内販売所での生徒による販売機会は僅かに増えたが、販売額については、天候不良が大きく影響し前年度を6%下回った。()</p>